

内令第三十二號

驅逐隊艇隊ノ教育訓練ハ營分ノ内別冊教範草案ニ依リ實施スヘシ

但シ別冊ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヲシテ配賦セシム

明治四十年三月七日

海軍大臣 齋藤 實

三十三

海軍

0273

内令第三十三號

潮岬望樓ノ無線電信機ハ修理ヲ要スルカ爲當分ノ間通信ヲ取扱ハス右修理竣成セハ更ニ告知ス

明治四十年三月七日

海軍大臣 齋藤 實

三十四

海軍

0274

内令第三十四號

海軍定員令中左ノ通改正セラレ

明治四十年三月八日

海軍大臣 齋藤 實

別表海軍砲術練習所定員表及海軍水雷術練習所定員表中「長 大佐」ヲ各「長 少將、大佐」ニ改ム

別表海軍機關術練習所定員表中「長 機關大中佐」ヲ「長 機關少將、機關大佐」ニ改ム

三十五

海軍

0275

内令第三十五號

吳鎮守府第二豫備艦

軍 艦 坊 川

右第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク

明治四十年三月九日

海軍大臣 齋 藤 實

實

川

海

三十六

海

軍

0276

官房第九五九號

在本邦伊國公使ヨリ友邦軍艦ノ沿海碇泊ノ件ニ關シ同國ニ於テ別冊ノ通勅令發布相成候  
趣通牒アリタル由外務大臣ノ移牒ニ接セリ此旨心得ヘシ

明治四十年三月十二日

海軍大臣 齋 藤 實

(別冊)

伊國沿岸ニ於ケル友邦軍艦ノ碇泊ニ關スル勅令第二百四十三號

天祐ヲ保有シ民意ニ依リテ伊太利ノ王位ヲ踐ミタルヴィットリヨ、エマヌエール三世  
ハ平時伊太利王國ノ海港及海岸ニ於ケル外國軍艦ノ入港及碇泊ヲ規定スル一千八百九  
十五年六月十六日ノ勅令第四百三十號、戰時海岸要塞内ニ於ケル艦船ノ入港及碇泊ヲ  
規定スル一千八百九十五年四月二十一日勅令第三百二十二號及平時要塞規則ヲ規定セ  
ル一千九百零五年六月八日ノ勅令ヲ參照シ海軍高等會議ノ諮詢ヲ經テ陸軍大臣及外務大  
臣ノ協議ヲ經タル海軍大臣ノ提案ニ基キ本令ヲ公布ス

(十七)

### 第一條

伊國沿岸ニ於ケル友邦軍艦ノ碇泊ハ本令第二條第三條第四條及第五條ニ規定スル制限ノ  
下ニ之ヲ許可ス但シ必要ナル場合ニ於テハ國際法規ニ基キ其ノ接近ヲ拒絕スルノ權ヲ保  
留ス

### 第二條

外國軍艦ハ海岸要塞内ニ八日以上碇泊スルコトヲ得ス且同一國旗ノ下ニ在ル外國軍艦ハ  
其ノ碇泊地ノ一ニ於テ三隻以上集合スルコトヲ得ス  
前項ノ制限ハ天災等ノ事故ニ依リ止ムヲ得サル特許ノ場合又ハ外交手續ヲ經テ王國政府  
ニ請求シ正式ノ許可ヲ得タル場合ノ外之ヲ犯スコトヲ得ス  
三隻以上ノ軍艦ヨリ成ル外國艦隊要塞内ニ入港シタルトキハ所在海軍官憲ハ該艦隊司令  
官ヲシテ定數以外ノ軍艦ヲ退去セシムル爲遲滞ナク之ニ本條第一項ノ規定ヲ通告スヘシ  
國防上ノ必要アルトキハ外國軍艦ニ對シ領海内ノ某區域ニ於ケル通過又ハ碇泊ヲ禁止ス  
ルコトヲ得但シ該區域ハ其ノ都度之ヲ指定スヘシ

該禁止ハ臨時又ハ永久ノモノタルヲ問ハス水路ノ告示ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘク且望樓、信號所及該區域ノ附近ニ在ル内國軍艦ニ於テモ萬國信號ニ依リテ其ノ附近ヲ通過スル外國軍艦ニ之ヲ通告スヘシ

### 第三條

左ノ海區ヲ海岸要塞トス

ヴァアード(サウオーナ)―ヂェトノヴァ―ズベエチヤ―モンテ、アルヂエンタ―リヨ―タ  
ラモ―ネ―(サン、ステファノ)―ガエターラ、マッダレーナ及其ノ附近ノ島嶼トサル  
ダ海岸―メッシナ及海峽兩側ノ錨地―タイラント―ヴェネチヤ及ヴェネチヤ鹹湖内  
ノ錨地

以上ノ海岸要塞中左記ノ場所ニ於テハ外國軍艦ハ禮砲ヲ行フヘシ但シ之ヲ行フヘキ状態ニ在ルモノニ限ル

チエーノヴァ―ズベエチヤ(灣内錨地ニ於テ)―ガエター(錨地ニ於テ)―マッダレーナ(群島内ノ錨地ニ於テ)―メッシナ(錨地ニ於テ)―タイラント(グランデ海及ピッツニコ海)―

(十八)

ヴェネチヤ(鹹湖内ノ錨地ニ於テ)

又禮砲ヲ行フヘキ状態ニ在ル外國軍艦ハ左記ノ場所ニ於テモ禮砲ヲ行フヘシ

ナーポリ(錨地ニ於テ)―アンコナー―パレルモ其ノ他砲ヲ行フヲ得ヘキ状態ニ在ル外國軍艦ノ碇泊スル王國內又ハエリトレニア殖民地ノ錨地

### 第四條

外國軍艦ニシテ前條ノ場所ニ碇泊スルモノハ到着後第二條ニ定ムル期間ヲ經過セサル場合ト雖王國政府ヨリ催告ヲ受ケタルトキハ何時ニテモ錨地ヲ離レサルヘカラス

### 第五條

外國軍艦王國內ノ港灣ニ到着シタルトキ海軍官憲ハ地方ノ法規ニ基キ之ニ碇泊地ヲ指定ス若シ該指定ヲ欠クトキハ該軍艦ハ適意ノ場所ニ碇泊スルコトヲ得  
外國軍艦要塞ノ防禦區域内ニ碇泊スルトキ及所在海軍司令部ヨリ援護ノ通告ヲ受ケテ同區域内ヨリ退去スルトキハ同司令部ヨリ正式ニ差遣シタル將校又ハ其ノ他ノ者ノ嚮導ヲ受クヘシ且碇泊地ノ出入ニ於テ探ルヘキ航路ニ關シ其ノ指示スルトコロニ從フノ義務ヲ

有ス該嚮導及指示ノコトハ無償ニテ執行スルモノニシテ之ニ關シ軍艦ノ被リタル損害ニ就テハ王國政府及其ノ官吏ハ何等ノ責任ヲ帶フコトナク且該軍艦カ所定ノ信號ヲ以テ要求シ或ハ地方水先案内人ヨリ提供シ又當該地方ノ特別ナル狀況ニ基キ必要欠クヘカラストスル普通ノ水先案内トハ全然關係ナキモノトス

#### 第六條

海軍將校又ハ港務官ニシテ外國軍艦又ハ外國艦隊ニ赴キ其ノ檢疫ニ關スル規定ヲ履行シタル後、就シヘキ錨地ヲ指示スヘキ任務ヲ委托セラレタル者ハ別表ノ申告書雛形一通ヲ其ノ司令官(艦長)ニ交付シ之ニ所要ノ記入ヲ爲サシメ且署名セシムヘシ  
又該司令官ニハ本令ノ謄本ヲ交付シ以テ本令ノ規定ヲ知悉セシムヘシ  
陸上下交通ヲ許サレサル場合ニハ前記將校ハ單ニ本令ノ謄本ヲ艦長若ハ艦隊司令官ニ交付ス茲ニ於テ艦長若ハ艦隊司令官ハ軍醫若ハ他ノ代表者一名ヲ所在檢疫所ニ派遣シ全檢疫所ノ調査ニ要スル通報ヲ提供シ又軍艦若ハ艦隊ノ各艦ニ施行セシムヘキ衛生上ノ指示ヲ聞取ラシムヘシ

(十九)

#### 第七條

外國軍艦ハ伊國海岸ノ何レノ地點ニ接近スルモ警察衛生及關稅ニ關スル現行ノ規則ヲ遵奉シ且伊國軍艦ノ遵奉スヘキ港則ニ服從セサルヘカラス  
同上ノ目的ヲ以テ地方海軍官憲ハ總テノ必要ナル通牒ヲ外國軍艦ノ司令官(艦長)ニ與フヘシ

#### 第八條

海岸要塞又ハ軍港ニハ午前八時ヨリ日沒迄國旗ヲ掲揚ス  
此ノ國旗ハ假令上記時間外ト雖尙ホ旗章ヲ識別シ得ルニ於テハ左ノ場合ニ臨時掲揚セラ  
ルヘキモノトス

一、軍艦ノ移動スルトキ

二、旗章ヲ掲揚スル軍艦ノ視界内ニ入りタルトキ

#### 第九條

何等ノ船舶ト雖領海内ニ於テ王國政府ノ特許ナクシテ水路ニ關スル作業ヲ行フコトヲ得

ス

第十條

何等ノ船舶ト雖王國領海内ニ於テ死刑ヲ行フコトヲ得ス

第十一條

交戦國ノ軍艦ニシテ領海内ニ在ルモノハ相互ノ間ニ戰鬪行爲ヲ爲スコトヲ禁ス此ノ規定ニ背反セル行爲アリタルコトヲ認メ之ヲ差止ムヘキ通告ヲ爲シタルニ拘ラス之ニ服セサル軍艦ハ王國砲臺及軍艦ヨリ敵艦トシテ待遇セラレヘシ

第十二條

外國軍艦及假裝巡洋艦ハ伊國領海内及伊國ノ島嶼附近ノ海上ニ於テ船舶ノ停止ヲ命シ之レカ臨檢ヲ行ヒ若クハ爰ニ拿捕物ヲ引入ル、ハ勿論其ノ他總テ王國ノ大權ヲ害スヘキ所行ヲ爲スコトヲ禁ス

第十三條

外國軍艦ノ乗組員ハ士官及下士ヲ除クノ外上陸ノ際ハ常ニ武装ヲ解カサルヘカラス

(二十一)

艦内ニ於テ死亡セル者ノ葬式ヲ營ム場合ニ司令官(艦長)之ニ儀仗兵ヲ附セント欲スルトキハ豫メ所在海軍若ハ陸軍ノ最高官憲又ハ之ヲ欠ク場合ニハ知港官憲ヨリ其ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條

外國軍艦ハ伊國陸上ニ於テ上陸演習ヲ行ヒ又ハ王國海岸ヨリ彈丸ノ達スル場所ニ於テ射撃演習ヲ行フコトヲ禁ス但シ外交手續ヲ經テ特別ナル許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條

外國軍艦本令ノ規定ニ背キタル場合ニ之カ勵行ヲ催告スルノ權ハ所在海軍官憲ニ屬シ若シ之ヲ欠ク場合ニハ港長ニ、又之ヲ欠ク場合ニハ陸軍官憲ニ屬ス犯則ヲ非認シ又ハ催告ニ服スルコトヲ拒絕スル場合ニ在リテハ該官憲ハ正式ニ之ヲ抗議シ且其ノ部下ヲシテ當該軍管區都督鎮守府司令長官、軍團長並ニ陸軍大臣若クハ海軍大臣中ノ一ニ宛テ直チニ電報ヲ以テ其ノ旨ヲ申達セシムヘシ

第十六條



海港ノ局外中立ニ關スル一千八百六十四年四月六日勅令第一千七百二十八號第十二條及第十三條 王國港灣及海岸ニ於ケル外國軍艦ノ碇泊ニ關スル一千八百九十五年六月十六日勅令第四百三十號及本令ニ懸觸スル其ノ他ノ規定ハ自今之ヲ廢止ス

本令ニハ國艦ヲ鈐シテ伊國法令全集中ニ挿入スヘキコトヲ命シ且之ヲ遵奉シ又ハ之ヲ遵奉セシムヘキ義務アルモノニ本令ヲ交付セシム

一千九百〇六年五月二十四日羅馬ニ於テ

グイットリヨ、エマヌエール

チイ、ミラベエルロ

エル、マイノールニ

グウイワチアルアイニ

附 錄

王國內ノ海港及碇泊地ニ在ル外國軍艦到着申告書

司令官(艦長)ハ本書中ニ所要ノ事項ヲ御記入アラシムコトヲ乞フ

(二十一)

- 一、國籍
- 二、艦名、艦種
- 三、大砲(門數及口徑)
- 四、司令官(艦長)ノ氏名及官階
- 五、乗員數
- 六、便乘者數
- 七、衛生狀況
- 八、出發地
- 九、仕向地
- 十、碇泊豫定期間
- 十一、入港ノ原因

一千九百〇 年 月 日

(司令官(艦長)ノ署名)

第二驅逐隊附ヲ命ス(二月二日横須賀水雷團)  
響乘組ヲ命ス(二月二日第二驅逐隊)

海軍中主計 高木 道  
海軍中主計 高木 道  
海軍筆記長 加藤鏡次郎

舞鶴海軍經理部衣糧科員佐野和一郎病氣引入中兵備品會計官吏并通常物品會計官  
吏代理ヲ命ス(三月舞鶴鎮守府)

海軍少主計 山田 基純

第八驅逐隊附海軍大主計清水金吾病氣引入中第八驅逐隊附命置候處差免ニ第八驅逐隊附ヲ命ス(三月四日佐世保水雷團)

(各通)

海軍少佐 森 駿藏  
海軍大尉 高橋 三吉

滿州出動中同艦分隊長代理相命置候處差免ス

(各通)

海軍中尉 赤峰 一郎  
海軍少尉 上妻敬二郎  
海軍機關少尉 石出 勝司

滿州出動中同艦臨時乘組相命置候處差免ス(以上三月五日横須賀鎮守府)

海軍志願兵検査ノ爲メ兵事官代理トシテ殿手縣へ出張ヲ命ス(以上三月同)  
海軍大軍醫 福田 了  
海軍中軍醫 島居大路俊平

(各通)

海軍中主計 横塚 平馬

明治四十年異動通報

海軍

敷設隊冬季演習ニ付同隊附ヲ命ス(三月五日横須賀水雷團)  
米國駐在中自今加俸四千圓ヲ給ス

海軍少佐 竹内 重利  
海軍兵曹長 平山甚之丞

明治四十年開催東京勸業博覽會海軍出品主任附ヲ命ス(以上三月七日海軍省)

海軍一等機關兵曹 鈴木幸太郎

淺間乗組上等機關兵曹職務心得ヲ命ス(三月四日第一艦隊)

海軍上等機關兵曹 久野由次郎

滿州出動中同艦臨時乘組相命置候處差免ス(三月五日横須賀鎮守府)

海軍上等兵曹 工藤桃太郎

(各通)

海軍上等兵曹 老松文治郎

明治四十年開催東京勸業博覽會海軍出品主任附ヲ命ス(三月七日海軍省)

海軍上等兵曹 伊東 雄治

第一課附兼第二課附ヲ免シ第二課附兼第一課附ヲ命ス

兼第二課附ヲ命ス(以上三月四日舞鶴海軍經理部)

海軍書記 山本健一郎

(各通)

任海軍書記

會計検査院屬 三島 孫市  
馬渡 三郎

給六級俸  
給八級俸  
舞鶴海軍經理部附ヲ命ス  
佐世保海軍經理部附ヲ命ス  
給四級俸  
(各通)  
依願免本官

海軍書記 三島 孫市  
海軍書記 馬渡 三郎  
海軍書記 三島 孫市  
海軍書記 馬渡 三郎  
海軍書記 馬渡 三郎  
海軍書記 馬渡 三郎  
海軍書記 馬渡 三郎  
海軍書記 馬渡 三郎

明治四十年開催東京勸業博覽會海軍出品主任附ヲ命ス(以上三月廿日同)

海軍技手 山本 元吉

○待命者滞在地變更

海軍中軍醫橋本正直ハ滞在地ヲ東京ニ變更方願出ノ處三月二日認許セラシタリ

○死去

海軍上等機關兵曹勳六等功七級大上伊三郎ハ三月五日死去セリ

○轉籍

海軍屬柴田岩ハ東京府へ轉籍ノ旨二月二十七日届出テタリ

○艇隊員乘退

第一潜水艇艇長心得中尉重岡信治郎ハ第一潜水艇ニ三月五日乗艇セリ  
第二十一艇隊附上等兵曹榎本政吉ハ第四十六號艇ニ三月二日乗艇同職務執行上等兵曹  
中村勝太郎ハ同日第四十六號艇兼乗ヲ免セシタリ

○懲罰

海軍中佐 田中 統郎

右ハ佐世保海軍測器庫主管トシテ在職中明治四十年一月一日午後十一時頃同測器庫倉側物置ヨリ出火シ事務室測器試驗室測器修理室假物置ヲ焼亡シ延テ其他ノ建物及ヒ備品ニ相當ノ損害ヲ生シ約一時間ノ後鎮火シタリ  
以上ノ事實ニ據リ火災ノ原因ヲ查察セリト雖モ明カニ之レヲ發見スルヲ得ス然レトモ測器庫主管カ直接監督ノ任ニアリナカラ此損害ヲ生シタルハ畢竟平素之レカ取締ニ欠クル所アリテ則チ職務懈怠ノ責アルモノトス依テ海軍懲罰令第十八條第十六號同第十條及ヒ第十一條ニ照シ謹慎三日ニ處ス(三月三日佐世保海軍工廠長)



内令第三十六號

擇 捉 丸

右吳鎮守府專用運送船トシ吳海軍港務部所屬ト定メタル處之ヲ解ク

明治四十年三月十三日

海軍大臣 齋藤 實

三十七

海軍

0284

内令第三十七號

一 鎮守府所管内ヲ通シ各級定員ヲ超過セサル範圍ニ於テ在役艦及第一豫備艦ニ於ケルナ  
二 斤砲以上ノ射手ニハ海軍定員令第十一條第二項ヲ適用シ上級者ヲ以テ次級者ノ位置ニ  
充ルコトヲ得

明治四十年三月十三日

海軍大臣 齋 藤 實

三十八

海軍

0285

令内第二十八號

佐世保鎮守府豫備艦

軍 艦 磐 城

右測量艦ト定メ測量ノニトニ關シテハ水路部長ノ指揮ヲ受ケシメラル

明治四十年三月十五日

海軍大臣 齋 藤 實

内令第三十九號

海軍艦船條例第三十五條ノ二第二項ニ依リ驅逐艦疾風ニ別表ノ乗員ヲ置ク

明治四十年三月十五日

海軍大臣 齋 藤 實

三十九

海 軍

0286

(別表)

考 備	計	疾風乗員表		驅逐艦長	少佐、大尉	一	二	一
		機關尉官	機關尉官	一等機關兵曹	二等尉卒	一	二	一
		兵曹長	兵曹長	二等水兵	二等機關兵	一	十	十
		機關兵曹長	機關兵曹長	二等主厨	二等機關兵	一	十四	十四
		將校同相當官	將校同相當官	士	士	二	五	五
		兵曹長同相當官、准士官	兵曹長同相當官、准士官	卒	卒	二	二十五	二十五
		機關尉官、機關長兼分隊長ノ職務ヲ行フ	機關尉官、機關長兼分隊長ノ職務ヲ行フ					
		兵曹長上等、兵曹、霰砲長兼掌水曹長ノ職ニ充ツ	兵曹長上等、兵曹、霰砲長兼掌水曹長ノ職ニ充ツ					

0287

丙令第四十號

横須賀鎮守府第二豫備艦

軍艦 武藏

舞鶴鎮守府第三豫備艦

軍艦 比叡

軍艦 摩耶

右第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク

舞鶴鎮守府第二豫備艦

軍艦 見島

右第一豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク其ノ定員ハ別表ニ依ル

明治四十年三月十五日

海軍大臣 齋藤實

四十

海軍

0288



(別表)

見島特別定員表

考 備	計	艦長	副長	航海隊長	砲術隊長	分隊長	中少尉	機關長	分隊長	機關中少尉	軍醫長	主計長	兵曹長	上等兵曹	船匠師	機關兵曹長	上等機關兵曹					
	將校同相當官	大佐	中佐	少佐、大尉	少佐、大尉	大尉	大尉	機關中佐	機關中尉	軍醫少監、大軍醫	主計少監、大主計	長上等兵曹	兵曹	兵曹	師	長上等機關兵曹	上等機關兵曹					
一 兵曹長 <sup>上等</sup> 兵曹ハ掌砲隊長兼掌水雷長ノ職ニ充ツ	十一人	一等兵曹	二等兵曹	一等信號兵曹	二等信號兵曹	一等船匠手	二等機關兵曹	二等機關兵曹	二等看護手	二等筆記	二等厨宰	一等水兵	二等水兵	一等信號兵	二等信號兵	一等木工	二等木工	一等機關兵	二等機關兵	二等看護	一等主厨	二等主厨
二 上等兵曹一人ハ掌帆長ノ職ニ充テ一人ハ掌砲長ノ職務ヲ分擔シ砲塔長ノ職ヲ兼テシム	七人	二等兵曹	一等信號兵曹	二等信號兵曹	二等船匠手	一等機關兵曹	二等機關兵曹	二等看護手	二等筆記	二等厨宰	一等水兵	二等水兵	一等信號兵	二等信號兵	一等木工	二等木工	一等機關兵	二等機關兵	二等看護	一等主厨	二等主厨	
三 兵曹ハ教員、掌砲長屬、掌水雷長屬、掌帆長屬及各部ノ長等ニ充ツ	七人	二等兵曹	一等信號兵曹	二等信號兵曹	二等船匠手	一等機關兵曹	二等機關兵曹	二等看護手	二等筆記	二等厨宰	一等水兵	二等水兵	一等信號兵	二等信號兵	一等木工	二等木工	一等機關兵	二等機關兵	二等看護	一等主厨	二等主厨	
四 信號兵曹ハ按針手ノ職ヲ兼テシム	七人	二等兵曹	一等信號兵曹	二等信號兵曹	二等船匠手	一等機關兵曹	二等機關兵曹	二等看護手	二等筆記	二等厨宰	一等水兵	二等水兵	一等信號兵	二等信號兵	一等木工	二等木工	一等機關兵	二等機關兵	二等看護	一等主厨	二等主厨	
	四十三人	七	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五
	百五十五人																					

0289

内令第四十一號

横須賀鎮守府第一豫備艦

軍艦 清州

吳鎮守府第一豫備艦

軍艦 姊川

右今同特命檢閱使乗用中各其定員中へ特ニ等尉卒一人ヲ增加ス

明治四十年三月十六日

海軍大臣 齋藤 實

四十一

海軍

0290

内令第四十二號

明治三十七年内令第七十七號ハ明治四十年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

明治四十年三月十九日

海軍大臣 齋藤實

内令第四十二號並照

明治三十七年内令第七十七號ハ此際在任保潔軍工廠ニ人員増加ノ件ナリ

内令第四十三號

明治三十八年内令第七百六十五號及明治三十九年内令第七十三號ハ明治四十年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

明治四十年三月十九日

海軍大臣 齋藤實

内令第四十三號並照

明治三十八年内令第七百六十五號ハ軍艦相摸、周防、肥前、丹後、阿蘇、宗谷及津輕ニ要スル定員及明治三十九年内令第七十三號ハ軍艦補州及姉川ニ要スル定員ヲ裁減補缺員ニテ之ニ充ツルノ件ナリ

四十二

海軍

0291

丙令第四十四號

右第九艦隊ニ編入セラル

佐世保鎮守府在籍

羅遜艦松 風

第九艦隊

羅遜艦松 風

右第一豫備艦隊ニ定メ全定員ヲ置ク

明治四十年三月二十日

海軍大臣 齋藤 實

四十三

海軍

0292

内令第四十五號

横須賀鎮守府豫備艦

軍艦 松

江

佐世保鎮守府豫備艦

軍艦 葛

城

右測量艦ト定メ測量ノヒトニ關シテハ水路部長ノ指揮ヲ受クシメラル

明治四十年三月二十日

海軍大臣 齋藤

實

四十四

海軍

0293

内令第四十六號

芝 栗 丸

右特設鎮守府及防備隊用運送船トシ佐世保鎮守府所管ト定メ旅順海軍港務部ニ屬セシメ  
タル處之ヲ解ク

明治四十年三月二十六日

海軍大臣 齋 藤 實

四十五

海軍

0294

内令第四十七號

若宮丸  
高崎丸  
辨天丸

烏帽子丸

右佐世保鎮守府専用運送船トシ佐世保海軍港務部所屬ト定メタル處之ヲ解ク  
右横須賀鎮守府専用運送船トシ横須賀海軍港務部所屬ト定メタル處之ヲ解ク  
明治四十年三月二十六日  
海軍大臣 齋藤 實

四十六

海軍

0295

内令第四十八號

大連西望樓ハ本月三十一日限り廢止ス

明治四十年三月二十六日

海軍大臣 齋藤 實

四十七

海軍

0296

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



内令第四十九號

明治四十年度ニ於テ海軍定員令第三條ニ據リ置クヘキ下士卒補缺員ノ定員ニ對スル割合  
左ノ通定ム

明治四十年三月二十八日

海軍大臣 齋藤 實

下士ノ部

官名	定員ニ對スル割合	官名	定員ニ對スル割合	官名	定員ニ對スル割合
一等兵曹	百分ノ八	三等軍樂手	百分ノ十六	二等看護手	百分ノ二十
二等兵曹	同	一等船匠手	同	三等筆記	同
三等兵曹	同	二等船匠手	同	一等筆記	同
一等信號兵曹	百分ノ二十	三等船匠手	同	二等筆記	同
二等信號兵曹	同	一等機關兵曹	百分ノ六	三等筆記	同

四十八

海軍

三等信號兵曹	百分ノ二十	二等機關兵曹	百分ノ六	一等厨宰	百分ノ十六
一等軍樂手	百分ノ十六	三等機關兵曹	同	二等厨宰	同
二等軍樂手	同	一等看護手	百分ノ二十	三等厨宰	同

卒ノ部

職名	定員ニ對スル割合	職名	定員ニ對スル割合	職名	定員ニ對スル割合
一等水兵	百分ノ八	三等軍樂生	百分ノ十六	四等機關兵	百分ノ六
二等水兵	同	四等軍樂生	同	一等看護	百分ノ二十
三等水兵	同	一等木工	同	二等看護	同
四等水兵	同	二等木工	同	三等看護	同
一等信號兵	百分ノ二十	三等木工	同	四等看護	同
二等信號兵	同	四等木工	同	一等主厨	百分ノ十六
三等信號兵	同	一等機關兵	百分ノ六	二等主厨	同

0297

		一等軍樂生	二等軍樂生
		百分ノ十六	同
		二等機關兵	三等機關兵
		同	同
		三等主厨	四等主厨
		同	同
	四十九		
	海軍		

0298

内令第五十號

月島假設望樓ヲ常設望樓ニ改ム

明治四十年三月二十日

海軍大臣 齋藤 實

五十

海軍

0299

内令第五十一號

旅順海軍工作部大連支部定員ハ營分ノ内之ヲ置カス

明治四十年三月三十一日

海軍大臣 齋藤 實

五十一

海軍

0300